



法用寺三重塔



ここから伝説が始まった

上野の寛永寺や日光東照宮を建立した、徳川家康のブレン、天海大僧正（慈眼大師）が得度した龍興寺には、福島県に三つある国宝のうちの一つ、一字蓮台法華経が所蔵されています。美しく彩色した蓮華座に心をこめて一字を書く毎に三礼して写経したといわれている経文で、「二字三礼経」とも言われています。平安時代の貴族や庶民が、現世の浄土を具現する祈りをこめた莊嚴経で、約七万字、全長九〇以て九巻が納められています。ほかに平泉中尊寺の金字一切経や瀬戸内厳島神社の平家納経が莊嚴経として知られています。古人の貴賤を越えた仏法信仰のまじめな態度がしのばれ、莊嚴な雰囲気があるただよう経文です。天海大僧上が両親の菩提を弔うために奉納されたものと伝えられています。

会津で唯一の三重塔がある法用寺に、国重要文化財の木造金剛力士立像があります。全国でも珍しい平安時代後期の作で、ケヤキの一本彫り。阿像は高さ二・二二以、吽像が二・一〇以。外観にことさらの誇張はみられません。内にもる充実した力の表現は見るものをして強い威圧感を与えます。法用寺は奈良時代初期の開基で、古代会津仏教の中心をなした古刹であり、同じ国重要文化財の本堂内厨子及仏壇とともに、かつての繁栄をしのばせてくれます。

国指定重要文化財 木造金剛力士立像（法用寺）

往昔説法既久我時在座身體疲懈但念空